

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート広場ころる		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 18日		~ 2024年 12月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	68世帯(74名)	(回答者数) 53世帯(全体の78%)
○従業者評価実施期間	2024年 11月 18日		~ 2024年 12月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	8名(全体の100%)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 4日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スタッフの専門性を活かした個別支援を行うことが出来る。	<ul style="list-style-type: none"> ニーズや特性に合わせたプログラムの設定。 支援計画に沿ってプログラムを提供している。 スタッフ間で連携しながら支援内容を協議し試行錯誤している。 担当を概ね2人程度に固定し、関係性を築き、安心して来所できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例検討の開催。 よりお子様に応じた計画の立案や支援内容の提供ができるよう協議を深める。 外部研修を受ける機会を増やす。 研修の活かし方のレバートリーを増やす(知ったことを共有する)。
2	定期的なイベント開催 (部活動、外部講師の招待等)	<ul style="list-style-type: none"> お子様のニーズに合わせて企画している。 スタッフ間で参加するお子様全員が楽しめるようにルール設定などを協議し、お子様に提示している。場合によっては事前にリハーサルを行っている。 5~10人程度の集団活動の機会を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> 開催日数の増加(お子様から希望あり)。
3	保護者の方と連携(活動内容の報告、お悩みに対応)	<ul style="list-style-type: none"> 活動の様子を報告する際にお子様の最近の様子を伺っている。 相談があった際には別途時間を設けて面談を行う(支援の提案等)。 保護者の方の考えを尊重する。 	<ul style="list-style-type: none"> 送迎に来所されない保護者の方と情報共有を行う機会を確保する。 保護者の方から提供された情報をスタッフ間でより共有する。 よりお子様の気持ちや考えを踏まえて支援を実施する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境の整備	<ol style="list-style-type: none"> 個室の防音性が低く、隣の部屋から声が聞こえる。 送迎が難しく、保護者をお願いしている。 駐車場が足りないことがある。 活動の入れ替わりの際に待合スペースが混雑し、席が確保できない。 外階段。 	<ol style="list-style-type: none"> 場所に応じて音量を調整するように意識する(お子様、スタッフ)。 スタッフの確保を行い、送迎希望に対応できるようにする。 駐車場を確保する。 活動終了時間を守り、入れ替わりをスムーズにする。 肢体不自由のお子様への対応方法等を検討する。
2	職員のスキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> 業務が多く、研修の機会を確保することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で話し合い業務の効率化を目指す。 職員が専門性を活かして研修を行う機会を設ける。 外部研修に参加する機会を増やす。
3	スタッフ間の意見交換、情報共有の機会が十分ではない。	<ul style="list-style-type: none"> 業務が多く時間の確保が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体共有が必要な情報等をあらかじめ決め、優先度の高い情報を効率的に共有する。